

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へのアンケート調査より「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」「授業の教え方や説明がわかりやすい」については、昨年度とほぼ同程度である。AB評価合計で70%前後であるが、教員としてまた進学校の最も根幹にかかわる部分で有り、さらに上げていく必要がある。 生徒へのアンケート調査より「本校の先生は、補習等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」についてはA評価16%、AB評価合計59%であり、昨年と比較して同程度でありやや低い。個々への対応が適切ではないことを示している。目的別や差別化した補習について検討していく必要がある。「本校では、教科により習熟度別学習や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている」について、保護者の回答も含めて決して高い評価ではない。個々に充分対応できていないことを示している。またその傾向は自然科学について特に強いように感じ、授業内容や指導方針など根本的に反省する必要がある。 生徒・保護者へのアンケート調査より1、2年について十分な家庭学習時間が確保できていない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	“能動的・主体的学び”という言葉キーワードとして基礎・基本の上に生徒に「自己効力感」「達成感」をどのようにもたせることができたか。また生徒の能動的・主体的な学びを伸ばすことができたか。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム委員会を中心に上記の重点目標をテーマとした校内研修を、教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知し実施していく。特に本年度は授業改善の具体的な一つの方法として“アクティブラーニング推進”を大きな柱とした。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組 (1) 公開授業・研究授業及び教科研究会の実施 (2) 授業評価アンケートの実施 (3) 生徒の進路希望を考慮したカリキュラム作成 (4) 少人数授業・習熟度授業の実施 (5) 評価方法の研究	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 生徒・保護者による授業評価および授業に関するアンケート (2) 生徒懇談、保護者懇談会等での意見吸収 (3) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価 (4) 教科研究会での評価・反省	10 評価
8 取組状況・実践内容等 <ul style="list-style-type: none"> 前期・後期2回に公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 全教科において前期終了時に授業評価の実施 自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定 各教科で現在の評価方法を検証するなかで、評価に対してさらに洗練させていく。アクティブラーニングにあわせた評価方法の研究を徐々に進めていく 	9 評価視点 <ul style="list-style-type: none"> ①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか ②授業評価結果が授業改善へと活かされているのか ③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか ④評価の研究ができたか 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> C <input type="radio"/> D</p>
11 成果・課題	<p>○“能動的・主体的な学び”をキーワードに生徒に「自己効力感」「達成感」を持たせる授業を実現するための1つ手段として「アクティブラーニング」を取り上げた。各教科会にその工夫や方法を検討し、研究授業での実践を依頼した。またアクティブラーニング推進委員会も立ち上げ、外部等の多くの情報を共有しながら、各教科で、授業実践・改善を繰り返した。少しずつではあるが授業に対する先生方の取り組みや考え方に変化が生じたような気がする。11月には各教科のアクティブラーニングを活かした授業改善についての報告を学習指導委員会(カリキュラム委員会)の中でも行うことができた。</p> <p>●昨年同様、上記において教科により内容の密度に偏りがあった。</p> <p>○マークシートを使用した全職員の担当2クラスにおける生徒による授業評価を実施。各教員の反省・点検にも繋がった。継続したい。アンケートを集計する中で各学年、各教科の傾向や課題もわかったが、集計については大きな負担である。</p> <p>●自宅学習時間調査について、本年度から廃止したことにより生徒の学習実態がつかみにくくなった。来年以降について意味のある適切な学習実態を調査する方法が求められる。本年も「生徒及び保護者を対象とするアンケート」で実態がわかり、1、2年について自宅学習が3時間行われていない状況である。</p> <p>●授業形態がアクティブラーニングを取り入れかわりつつあるので、評価基準についても考えていく必要がある。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準も含めて「アクティブラーニング」の研究を継続して、さらに進めていきたい。従来型授業との間で、今後のあるべき授業について模索したい。生徒の学習実態や生活実態を把握し、家庭学習時間3時間の確保を強い目標としたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月17日

【意見・要望・評価等】

- ・学習時間調査は、生徒が自分自身を振り返れるので、以前のように実施した方が良いのではないかと。教員も生徒の学習実態を把握すべき。
- ・生徒の家庭学習の内容はどうか？ → 生徒には授業の予習を励行している。土日は休日課題を出している。
- ・家庭での学習時間も大事だが、予習等の中身が大切ではないか。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>全体的に昨年度よりプラス評価が多くなっていて、実践・実績が評価されつつあるとの印象が持てる。特に進路関係行事や進路情報の提供については、ここ数年にわたって種類・質ともに充実を図るとともに、ホームページや進路通信等で発信してきたことが奏功したものとする。</p> <p>しかし学習指導に関する項目では来年度に向けて課題が残ったといわざるを得ない。例えば、サタスタや補習について2年生を中心にマイナスな評価が目立つ。また総合学習についても今一つ高評価が少ない。指導方法や動機づけなど改善の必要がある。ただし両項目ともに3年生になるとプラス評価が高まっていることからすると、基本的な方向性に誤りがあるのではなく、どのように効果をあげるかという方法論上の問題ではないかと判断する。来年度に向け具体的な改善策を提案していきたい。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇目標明確化と評価過程充実を図り、指導内容・方法を改善する。 ◇「開かれた進路指導」を推進する。 ◇生徒一人一人が自己効力感・有用感を保持しつつ進路選択を検証することができるように指導と援助を使い分け「キャリア発達」を促す。 ◇入試改革に関する情報を把握し対応できるシステム構築を目指す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部会での情報交換、協議をもとにした進路指導の推進。 ・学年会、職員会議等会議での情報提供・収集。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 綿密なデータ分析による研修・検討会実施 (2) 授業・補習等を通じた入試多様化への対応 (3) 情報発信の充実と外部環境活用拡大の推進 (4) 進路選択のための情報入手と検証機会充実 (5) 変化・現状に柔軟に対応した指導体制創造	(1) 模試、入試での生徒成績を分析する。 (2) 授業評価、補習の参加状況を分析する。 (3) 各種行事の参加状況やアンケートを分析する。 (4) 総合的な学習の時間、HRの評価を分析する。 (5) 個々の取り組みの検証・見直しを判断する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・進路説明会（生徒、保護者向け）実施。 ・模試の効果的活用。 ・進路指導 HP 充実、多治見高校サポーター制。 ・校内行事の拡充と外部行事への積極的参加。 ・改訂した補習、課題テスト、内規の実施。	①学校の進路の数値目標達成 ②生徒・保護者の評価結果 ③生徒の実態に応じた事業推進	A B C D A B C D A B C D
11 成果課題	○入試改革への具体的な対応に先鞭をつけることができた。 ○生徒・保護者ともに「開かれた進路指導」の高評価を継続・向上できた。 ▲サタスタ・補習（特に2年生）の方法・動機づけの改善を図っていく必要あり。 ▲特進クラス廃止に伴う中上位者指導の具体的方策を策定しなければならない。 ▲総合的な学習の時間の在り方について改善が必要。	
12 来年度に向けての改善方策案	①2年生のサタスタについて改善を図る。 ②中上位者指導として長期休業中や平日の補習実施を検討する。 ③一年生の総合的な学習の時間を復活し「学び方を学ぶ」として2年次ゼミ学習のための準備をする。 ④夏休み前に大学ごとの個別説明会を大学関係者を招き3週間にわたって実施する。 ⑤国公立大学のAO・推薦入試への対策を3年生夏休み前から開始する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月16日

【意見・要望・評価等】

- ・進学のために、上位者だけ集めて補習をした方が良いのではないか。（正反対の意見もあり）
- ・3年生の補習は強制ではなく、希望者にした方が良いのではないか。
- ・いつまでに何をやるかというシラバスを生徒一人一人に作らせると良いのではないか。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べると、ほとんどの項目で生徒・保護者ともに肯定的な評価が微増しているか横ばい状態である。継続的指導の結果である。 ・特に携帯電話の指導では、生徒の肯定的評価が高い数値を示しており、情報授業での取り組みや情報モラル講話などの成果である。 ・教育相談といじめ対応の項目で「わからない」の保護者回答が、依然高い数値である。プライバシーに配慮を必要とする面もあり周知しにくい点が課題である。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自律心を育て、基本的な生活習慣とマナーの確立。 あいさつ指導・身だしなみ指導・遅刻防止指導・情報モラル指導・交通安全指導など 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の共有、共通理解による指導。 ・教育相談体制の充実と学年会や他分掌との連携。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 毎日の登下校指導と身だしなみ確認週間、MSリーダーズ・育友会と協力した挨拶運動。 (2) 継続的な交通安全、情報モラル、遅刻防止、自転車施設指導。 (3) いじめ調査の複数回実施による未然防止と人権統一LHR。(ひびきあいの日)	(1) 育友会、生徒の評価アンケートなど (2) 統計による内容と頻度の年度比較 (3) 生徒と職員の評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一週間の身だしなみ確認週間での全職員輪番での指導。MSLと育友会のあいさつ運動。 ・適時な交通安全と情報モラル指導。毎日の遅刻防止、自転車施設指導。 ・特別活動部との合同講演会(ひびきあいの日) 	(1) 生徒の主体的な取り組みと職員の統一した指導。 (2) 特別指導件数と統計の年度比較。 (3) 生徒、保護者の評価、意見。	A B C D A B C D A B C D	
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○MSLが中心となり交通安全啓発、自転車点検、あいさつ運動、清掃活動をおこなった。 ○教育相談ではいろいろな事案に外部機関とうまく連携が取れ、当該生徒や周囲に対して迅速なケアをすることができた。また、いじめ調査からいじめが疑われる生徒への早期対応もできた。 ▲問題行動全体では減少傾向にあるが、身だしなみ指導ではスカート丈や靴下などに多少ルーズさが目立つようになってきた。 ▲遅刻減少のための効果的施策ができていない。特に3年生の10月以降に激増傾向がある。 		
12 来年度に向けての改善方策			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の大切さを職員が共通理解し、共通行動できるような体制の構築。 ・いじめ防止と教育相談に関する項目の保護者への周知を学校ホームページなど通じて図る。 ・命の尊さの指導と交通事故の未然防止、事故後の対応に関する指導を継続的に実施する。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月16日

【意見・要望・評価等】

・部活動の試合等で校外に行ったときこそ、服装に気をつけてほしい。

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒の「28清掃が行き届いており校内がきれいである。」の否定的な意見は、5%悪化し43%である。半数近くの生徒が現状に満足していない。学校への帰属意識を高め、清掃指導を工夫する必要がある。 ・「防災マニュアルの周知」では、生徒は横ばいだが、保護者の回答が悪化している。生徒への配布物だけでなく、メール配信等でも周知を図る必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・個生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。 ・事故や災害での被害防止ため、研修や訓練を通して万全な危機管理態勢を整える。 ・清掃活動を通して奉仕の心を育て、清潔で快適な環境を整備する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・保健厚生部が中心となり、職員・生徒の救急救命研修、命を守る訓練を計画・実施する。 ・年4回の安全点検を実施して危険箇所・修繕箇所を把握し、事故災害等の発生しにくい環境を整える。 ・毎日の清掃に加え、季節や行事に合わせて大掃除を実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施 (2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実 (3) 清掃マニュアルの作成と大掃除の実施。	(1) 本校職員、講師による評価 (2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価 (3) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 1年生全生徒と全職員に救急救命講習、2年生全生徒による防災研修、2回の命を守る訓練の実施。 (2) 年4回定期考査時の安全点検の実施と改善箇所のまとめと事務への引継ぎ。 (3) 職員への清掃アンケートの実施と清掃マニュアルの作成、大掃除でのワックスがけ。	(1) 講習、訓練時等の様子、消防署職員・防災士の講評 (2) 安全点検の報告・まとめ、改善の確認 (3) 生徒アンケート、職員の点検	A (B) C D A B C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
○1年生全員と全職員に救急救命講習を実施した。 ○2年生全員に防災士によるDIG防災研修会(災害図形訓練)を実施した。 ●校内美化に関する生徒アンケート結果から、具体的な対策を講じる必要がある。(日常清掃時間の変更、職員・生徒の美化意識の向上等) ●保護者アンケートに校内美化に関する項目を加える。 ●保護者への防災マニュアルの周知方法。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
・校内美化に関しては、毎日の清掃時間の変更を提案する。(放課後清掃、5分延長、長期休暇・行事前の大掃除の実施等)保護者へのアンケート方法を考える。 ・防災マニュアルは毎年配布しているのが、アンケートでは保護者へ周知が不足しているようなので、学校メール等を利用して周知を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月16日

【意見・要望・評価等】 ・来校してみて学校内はきれいだと思う。どうしてアンケート結果が悪いのか？ ・清掃の仕方を生徒に指導されているか？ → 職員に清掃マニュアルを示している。
--

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。 スローガン 「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一多治高生」	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や体験学習など授業以外の学習機会の設定について、満足度が生徒で17%上昇して、生徒・保護者ともに70%を越えている。継続的に実施し、生徒のスキルアップの一助としたい。 ・部活動では保護者・生徒ともに80%以上の満足度、学校行事についても生徒の満足度は80%を示している。今後も生徒に満足感を持たせる指導と、保護者に活動内容や結果を知らせるなどの連携をとっていきたい。 ・ボランティアに関する項目について、生徒の満足度が5%伸びているが、全体としては50%を切っており、参加の促進が今後の課題である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇達成感や満足感ある行事になるよう、活動しやすい環境を整え、高い志とチャレンジ精神で臨み、夢を実現できる力を育む。 ◇HR活動・生徒会活動・部活動等、生徒の自治活動を支援・指導することにより、生徒の自主性や自立心及び人間関係形成能力を育む。 ◇学習とともに部活動への積極的な参加を促し、生徒指導面・技術指導面・精神的支援等多面的な指導を行う取組を推進する。 ◇特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。 ◇地域行事等の機会を利用した貢献活動（ボランティア活動等）への積極的な参加を推進する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部会での協議を通して、意思疎通を図り、協力して取り組む。 ・部活動・委員会活動の活性化のため、他分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事を通して、高い志とチャレンジ精神で臨み、達成感や満足感を体感し、本校生徒としての誇りと自信を持つことで、夢を実現できる力と豊かな人間性を育む。	(1)各行事に対する生徒アンケートを分析評価する。	
(2)集団や社会の一員として、望ましい人間関係を構築し、自主性や自立心とともに、協調性や責任感・公共心を育む。	(2)生徒の学校評価に関するアンケート調査における項目、LHRの実施状況の報告により分析評価する。	
(3)生徒会・委員会・部活動等の活動を通して、自己有用感を醸成するとともに、協力して問題を解決できる実践的な能力を育む。	(3)部活動の加入状況や活動状況及び成績、委員会の活動実績により分析評価する。	
(4)地域行事等の機会を利用した貢献活動（ボランティア活動等）への積極的な参加を推進する。	(4)ボランティア活動への参加者数、生徒の活動報告により分析評価する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1)生徒会を中心とする学校行事の企画・運営と参加生徒の積極的な取組を推進する。	(1)行事ごとのアンケート	A B C D
(2)多治高活性化プロジェクトを開催し、学校活性化のための生徒による提案を行う。 「HAVE A DREAM PROJECT」講演会の開催。	(2)生徒会の活動状況と活動後の感想、アンケート結果	A B C D
(3)部活動加入状況・活動状況調査による状況把握を行う。	(3)部活動の加入・活動取組状況 生徒会・委員会の活動取組実績	A B C D
(4)対外的行事等への積極的な参加を促進する	(4)参加状況・取組状況	A B C D
11 成果課題	○学校行事の満足度は、スポーツ交流大会「良い」94.7%、桔梗祭「とても充実していた」「まあまあ充実していた」97.0%、球技大会「とても充実していた」「まあよかった」91.8%と多くの生徒が満足している結果となった。また、生徒一人一人が主体的に参加しクラスの団結が高まったと答える生徒も9割を超えた。 ○「HAVE A DREAM PROJECT」講演会では満足度が「とてもよかった83.6%」「まあまあよかった15.3%」98.9%あり、生徒には自分自身のあり方や生き方を考えるよい	
	総合評価 A B C D	

<p>機会となった。今後も、継続して実施していきたい。</p> <p>○生徒会や各部活動の部長による部長会を開催し、本校の活性化のための意見交流を行った。問題点を提起した上で、今年度は生徒会が主体的に動き、養正小学校前でのあいさつ運動を展開することができた。</p> <p>▲地域に貢献することを目指し、地域活動やボランティア活動など対外的な行事に、生徒会執行部やMSリーダーズ、演劇部、吹奏楽部、野球部、陸上部が積極的に参加した。その活動を報告し、多くの生徒・保護者、地域の方々に知ってもらえる場を設定できるとよい。</p> <p>▲保護者、地域に対し多治見高校を理解してもらう面では、不十分であった。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や「HAVE A DREAM PROJECT」講演会を通して、多治見高校生としての高い志とチャレンジ精神を育み、自信と誇りを持たせ自己の夢を実現させる。 ・多治高活性化プロジェクトを引き続き開催し、生徒の意見を学校運営に反映させ、魅力ある学校づくりを行う。 ・積極的・主体的な生徒会活動、委員会活動、部活動とするために、それぞれの取組を今以上に深めていく手立てを考えていかなければならない。 ・学校行事やボランティア活動、部活動の結果など、本校生徒の活動の様子や活躍の姿をホームページや生徒会新聞、地域の広報誌などを通して、より広く発信していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月16日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は、普段知らない世界に触れられるので、もっと参加できると良いと思う。 ・ボランティアは公募で呼びかけているか？ → 学校に来たものを紹介しているが、特定の部活動にお願いしているのが現状。 ・特定の部活動や生徒会ばかりでなく、一般の生徒にも参加してほしい。 ・生徒のボランティア活動体験を他の生徒にも伝えていけばどうか。 ・インターンシップ（例えば看護とか）の後の感動を周りにも伝えたら良い。
--